

個別化医療を目指した臨床薬物動態学 — I. 基礎編 — [訂正表]

(平成 28 年 3 月 20 日初版発行分)



vi ページ(目次) 3-4-3 を下記のとおり訂正する。

3-4-3 妊婦・授乳婦の薬物治療 (西村あや子)

頁 行	誤	正												
p.30 図 2-2		4) variable number tandem repeat の下 右から 4 番目の T に色アミ												
	4) variable number tandem repeat ... A G C G A G T A C T A G C G A G T G A G T G A G T A C T ...													
p.32 表 2-1 3A4,5,7	基質薬物の ↓ 5 ン, ジルチアゼム, ニフェジピン, アトルバ	ン, ジルチアゼム, アトルバ ニフェジピンを削除(重複のため)												
p.38 表 2-5 最下段	Poor Metabolizer(*1/*2,*2/*3)	Poor Metabolizer(*2/*2,*2/*3)												
p.46 ↓ 13	$R_{\text{inhibition}} = \frac{AUC_{\text{+inhibition}}}{AUC_{\text{control}}} =$	$R_{\text{inhibition}} = \frac{AUC_{\text{+inhibition}}}{AUC_{\text{control}}} =$												
p.46 ↓ 15		IC を赤字にする												
p.46 ↓ 16	AUC の低下は,	AUC の低下率は,												
p.46 ↓ 17	$R_{\text{inhibition}} = \frac{AUC_{\text{+inhibition}}}{AUC_{\text{control}}} =$	$R_{\text{induction}} = \frac{AUC_{\text{+induction}}}{AUC_{\text{control}}} =$												
p.47 表 2-14 右の欄	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>白人</th> <th>黒人</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.340~0.389</td> <td>0.350~0.446</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	白人	黒人	0.340~0.389	0.350~0.446	0	0	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>白人</th> <th>黒人</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>0.340~0.389</td> <td>0.350~0.446</td> </tr> </tbody> </table>	白人	黒人	0	0	0.340~0.389	0.350~0.446
白人	黒人													
0.340~0.389	0.350~0.446													
0	0													
白人	黒人													
0	0													
0.340~0.389	0.350~0.446													
p.49 ↓ 1	Intermediate Acetylator	Intermediate Acetylator												
p.50 ↑ 3~2	ABC (ATP-binding cassette) タンパク質 ABCB1	ABC (ATP-binding cassette) トランスポーター ABCB1												
p.58 表 2-25 タイトル	SJS/REN 発症と HLA-A * 3101 アレル	SJS/TEN 発症と HLA-A * 3101 アレル												
p.63 ↓ 4	…が関係している. 個人差と…	…が関係している(表 3-1). 個人差と…												
p.64 図 3-1 横軸	Eradication rate(%)	除菌率(%)												
p.75 図 3-9	Marked increase in tissue 5-FU levels Toxicity to bone marrow and intestines Acute death	図中の語句を日本語にする 組織 5-FU レベルでの顕著な増加 骨髄および腸への毒性 急性死												
p.89 図 3-12 縦軸	クレアチニンあるいはシスタチン C の血清濃度	クレアチニン(mg/dL)あるいはシスタチン C の血清濃度(mg/L)												
p.89 ↓ 1	場合でも(表 3-20),	場合でも(表 3-17),												

p.94 ↑7	組織における薬物の分布容積が、血漿中における分布容積に比較して、	組織における薬物の分布容積 V_T が、血漿中における分布容積 V_B に比較して、
p.95 図 3-19 (B)		下記に差し替え
	<p>(B) 組織分布性が高い (分布容積が変化する)</p> <p>血漿中 結合形 遊離形 f_u 通常 血漿中遊離形分率</p> <p>組織中 結合形 遊離形</p> <p>血漿中 結合形 遊離形 f_u' 腎疾患 血漿中遊離形分率</p>	
p.97 ↓6	前出の式(1-5)を利用して、	前出の式(1-6)を利用して、
p.97 式 3-15	$CL_{tot} = CL_H = \frac{Q_H + f_u \cdot CL_{H,int}}{Q_H + f_u \cdot CL_{H,int}} = Q_H \cdot E_H$	$CL_{tot} = CL_H = \frac{Q_H \times f_u \cdot CL_{H,int}}{Q_H + f_u \cdot CL_{H,int}} = Q_H \cdot E_H$
p.109		式(3-23)を ↑11 が成立する. と こうした薬物… の間に移動する
p.128 ↑4	が最も低く、グルクロン酸抱合活性が	が最も低く、硫酸抱合性に対するグルクロン酸抱合活性が
p.149 ↑3	CYP2C9 の基質薬 PHT は、	CYP2C9 の基質薬フェニトインは、
p.152～ p.153		p.152 の表 3-36 を p.153 の ↓15～16 の間に移動する

個別化医療を目指した臨床薬物動態学 ーⅡ. 治療薬物モニタリング編ー [訂正表]
 (平成 28 年 3 月 30 日初版発行分)

頁 行	誤	正
p.184 ↓ 12 ~13	投与量 Dose(iv)は, 式(4-8)より	投与量 Dose(iv)は, 式(4-7)より
p.184 ↓ 15 ~16	投与量 Dose(po)は, 式(4-11)より	投与量 Dose(po)は, 式(4-10)より
p.237 図 5-16	 有効血中濃度域	 一般的な有効血中濃度域 として, 図の外へ移動
p.273 ↓ 2	vancomycin intermediate <i>S.aureus</i>	vancomycin intermediate-resistant <i>S.aureus</i>
p.327 ↑ 3	提唱されている ^{25),26)} (図 6-6).	提唱されている ^{25),26)} (図 5-44(b)参 照).
p.328		図 6-6 を削除する (図 5-44(b)と重複するため)